

I -b) 連携型中高一貫教育校の取組

1 中高大連携によるこれからの教育実践モデルの構築について

平成 19 年、神奈川県教育委員会と横浜国立大学教育人間科学部（現教育学部）の間で「中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築」に係る実施計画が策定された。同計画に基づき、光陵高校は、平成 21 年度より、中学校・高校の 6 年間を通じた、生徒一人ひとりの個性を生かし特性を伸ばす教育の展開に資するため、中・高・大連携による「かながわの中等教育の先導的モデル」をつくるための実践研究を進めている。

<基本コンセプト>

- これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）を育成する。
- 多様化する国際社会、多様化する価値観の中で「人」が生きていく上でのさまざまな「かかわり」（「共生」）とそれを支える「コミュニケーション」を基盤とした教育活動を展開する。

<展開の方法>

- 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校と神奈川県立光陵高等学校との連携による教育の展開
 - ◆ 連携にあたっては、「連携型中高一貫教育校」のしくみを活用し、6年間を見とおした教育課程を編成する。
 - ◆ 平成21年度より「連携型中高一貫教育校」として教育展開を行い、平成24年度より附属横浜中学校から「連携枠」による光陵高校での受入れを行う。
 - ◆ 高校においては、連携する中学校から入学した生徒と他の中学校から入学した生徒が、相互により影響を与えあう集団による教育展開を行う。
- 横浜国立大学の資源を活用した教育展開への支援

